

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 ① いじめ、不登校への適切な対応 ② あいさつと言葉遣い	2	○ いじめの芽と考えられる事案については、即座にいじめ対策委員会を開き迅速かつ適切に対応したことで、全ての事案が解消もしくは解消に向かっている。ただ、いじめに発展しかねない対人関係のトラブルにおいても、担任だけで抱えたり同学年のみで対応をしたりしようとしたケースがあり、いじめ発生時の対応に関する職員の意識に差があることを感じた。組織的に適切な対応を進めていくためにも、校内の基本方針を改めて周知し、些細なことでも報告をすること、チームで対応することの大切さについて機会がある毎に指導をしてきた。不登校や登校渋りの事案について、学校だけでは対応が難しい事案もあり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、こども政策課等と連携しながら改善を目指している。 ○ あいさつの向上については今年度の最重点努力項目と位置付け、各学年や児童会で具体的な方策を決め、指導を続けてきた。全体的な意識は高まってきたが、大きな変容は見られていない。実際に児童アンケートの結果も4点満点中、平均が3.1(昨年度3.3)という結果に留まった。結果を重く受け止め、この3学期は、職員自らが積極的にあいさつをしたり学年単位で継続的に指導をしたりすることで、意識だけではなく態度の変容を目指していく。
	2 基礎学力の充実 ① 確かな学力の育成 ② 教職員研修の充実	3	○ 長崎県学力調査、全国学力・学習状況調査ともに国語科、算数科それぞれの調査で、全国平均を上回った。ただ、国語科の「書く」領域、算数科の「図形」領域において課題があるので、2学期以降に授業改善を通して重点的に指導を行っている。ながよ検定の結果については、4月実施の合格状況が漢字95.2%、計算94.7%に対して9月実施の合格状況がそれぞれ96.1%、95.9%という結果となり、各学年において指導の成果が表れたと捉えている。 ○ 特別活動の「学級活動1・2・3」について、校内研究を通して指導力の向上を目指してきた。学年部を中心に授業づくりについて話し合ったり、実際に授業を見せ合ったりする中で指導力を磨き合っている。また、初任者研修や若手研修を授業者だけではなく、若手を中心とした職員の成長の機会ととらえ、積極的な参加を呼び掛けた。また、指導力のある中堅・ベテラン職員を各学年に配置したことで、同学年内における人材育成も図られている。
	3 健康安全教育の推進 ① メディアコントロール ② 安全教育の推進	3	○ 養護教諭が中心となって、PTAと連携をしながら、家庭におけるスマホやメディアとの向き合い方について子供たちへの指導や家庭への働きかけを行ってきた。毎月、保護者へアンケートをとることで実態を把握しているが家庭によって意識が異なったり、SNSによる生命を脅かしかねない事案が発生したりしたので今後も子供たちへの指導や保護者への啓発を続けていく。 ○ 正しく安全な廊下歩行を努力事項として位置付け、継続的に指導を行ってきた。教室移動など学級単位で動く際は、大きな乱れこそないが、それ以外ではまだ十分とは言えないので学年単位での指導を今後も根気強く続けていく。また登下校時においても、信号の待ち方や通学路の歩行の仕方について、地域の方からの情報をいただくこともあったので、指導を徹底したい。
	4 特別支援教育の充実 ① 一人一人のニーズに応じた支援 ② 教育相談の充実	4	○ 指導教諭を中心に特別支援学級や通級指導を利用している児童の指導について指導体制や指導改善が図られ、充実した指導ができていく。また、通常学級の中でも困り感を抱えている児童に対する具体的な支援の在り方をケース会議を通して共通実践してきたことで、一人一人の児童や保護者のニーズに応えるよう努めてきた。 ○ 困り感のある児童に対して、積極的に保護者面談を行うことで、家庭との情報共有を大切にできた。担任だけでなく指導教諭や管理職も入って応じたことで、保護者の不安感を取り除き、適切な助言を行うことができた。
	5 国際化への対応 ① 外国語活動の充実	3	○ 外国語専科の配置により、コミュニケーションや発音等においてより専門的な指導を行ってきた。また、それぞれの学級で、ALT(外国語指導助手)を効果的に活用した外国語科や外国語活動の授業を展開している。英会話クラブも発足し、児童の趣向に沿った活動もできている。
	6 教育環境の整備 ① 整った教育環境 ② 保護者・地域との連携	3	○ 学習環境を整えることの大切さについて若手教職員を中心に継続的に指導を行ってきた。現在では、概ね美しい教室環境の中で教育活動が展開されている。次年度以降も全校で共通理解し、徹底を図りたい。 ○ 今年度から新型コロナウイルス感染症が五類になったことをきっかけに、教育的な効果を吟味しながら、できることから再開した。授業参観を年間に3回実施し保護者からも好評をいただいたが、懇談会の運営の仕方については再度目的を共有しながら更なる充実に努めたい。
	7 教職員の資質向上 ① 指導力の向上 ② 児童に寄り添う教師	3	○ 授業づくりについて、児童及び保護者アンケートともに、よい評価をいただいた。今年度も学年単位での授業づくり体制ができていくことが効果的だったように思う。学習のねらいに沿っためあての設定や対話的な学びの充実など、指導力の向上に努めたい。 ○ 問題を一人で抱え込まず、誰かに相談して解決に向かうチームとして動く体制も整ってきている。他校と比べて職員が多く配置されているという強みを生かし、さらなる体制の充実に今後も探っていききたい。